

パートII. 旧約時代
5章 大洪水

イントロダクション

1. 「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマを基に聖書を読み解く作業を行っている。
2. パートI. 葛藤の舞台設定 (1~3章)
 - (1) サタンは、悪魔の国を造るという目的をある程度達成したかに見える。
 - (2) 神は、直ちにサタンを滅ぼすこともできたが、そうはしなかった。
 - (3) 神は、創世記3章15節で福音の原型を示された。
3. パートII. 旧約時代 (4~17章)
 - 4章 カインとアベル
 - (1) サタンは、墮天使と人間の娘の雑婚を推進した。
 - (2) これは「女の子孫」の誕生を阻止するための策略である。
 - (3) 神の対抗策は、地球を覆う大洪水である。
 - 5章 大洪水
4. アウトライン
 - (1) 人の悪の増大
 - (2) 箱舟の建造
 - (3) 大洪水
 - (4) 神の守り

大洪水について学ぶ。

I. 人の悪の増大

1. 大洪水が起る直前の地上の状態は、どのようなものであったか。
 - (1) 創6:5

Gen 6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。

- (2) 創6:11~12

Gen 6:11 地は神の前に墮落し、地は暴虐で満ちていた。

Gen 6:12 神が地をご覧になると、見よ、それは墮落していた。すべての肉なるものが、地上で自分の道を乱していたからである。

2. サタンは、セツの家系から「女の子孫」が誕生することを阻止しようとした。

(1) カインの家系とセツの家系を接触させる。

①セツの家系に悪影響を与え、その信仰を破壊する。

(2) 墮天使たちに人間の女たちと結婚させる。

①人間の女には、カインの家系もセツの家系も含まれる。

②この雑婚の目的は、異常な人間を誕生させることである。

③その結果、「ネフィリム」と呼ばれる存在が誕生した。

(3) マタ 22:30 から、天使は結婚するのかという疑問が生じる。

Mat 22:30 復活の時には人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。

①この聖句は、良い天使たちの関するものである。

②墮天使たち（悪霊たち）は、人の娘と結婚する。

3. 人類が墮落して行くのを見て、神は大いに悲しまれた。

(1) 創 6:6~7

Gen 6:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

Gen 6:7 そして【主】は言われた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜や這うもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを悔やむ。」

①神は、人類を破滅から救おうとされた。

II. 箱舟の建造

1. 神は、サタンの悪影響を受けない1人の信仰者を残しておられた。

(1) ノアは、セツの家系に属する人物である。

①彼は、時代の圧力（この世の価値観）に抗し、神に従順な生活を続けた。

②神は、ノアと3人の息子たちを通して新しい人類の歴史を作ろうとされた。

2. ノアの時代に大洪水が襲った理由が、2つ考えられる。

(1) 人類の罪を裁くための方法として、洪水が用いられた。

①この洪水は、局地的なものではなく、地球全体を覆うものである。

(2) ノアとその一家が悪影響を受ける前に、罪人たちを地上から取り去るため。

①「女の子孫」の家系をサタンの攻撃から守るための反撃策である。

3. 神はノアに、箱舟を造るように命じた。

(1) 箱舟は、原語では「テイバー」である。

①これは、ヘブル語ではなく、エジプト語から借用したものである。

- ②その意味は、船ではなく、箱である。
- ③赤子のモーセが入れられた籠もまた「テイバー」である。
- ④ノアの箱舟と、モーセの籠には、類似点がある。
- ⑤溺死から守られた者には、他の人に救いをもたらす使命がある。
- ⑥モーセは、イスラエルに解放をもたらすために救われた。
- ⑦ノアもまた、人類に救いをもたらすために救われたのである。

(2) 箱舟のサイズ

- ①長さが 300 キュビト (135m)
- ②幅が 50 キュビト (22.5m)
- ③高さが 30 キュビト (13.5m)
- ④広さに換算すると、 $135 \times 22.5 = 3,037.5 \text{ m}^2$ 、およそ 920 坪。
- ⑤3 階建てなので、総床面積は 2,760 坪にもなる。
- ⑥船のサイズに換算すると、排水トン数 4 万 3,000 トンになる。
- ⑦米国の鉄道で使用している家畜運搬車両 550 両に匹敵するサイズである。
- ⑧羊なら、この箱舟に 13 万頭も入れることができる。
- ⑨種類が知られている動物たちをすべて入れたとしても、3 万 5 千～7 万頭。
- ⑩この箱舟は、航行することではなく、浮ぶことだけが目的の建造物である。
- ⑪この構造なら、仮に 90 度近く傾いたとしても、元に戻る。

(3) 神から、すべての動物を 2 匹ずつ入れるようにという命令が下った。

- ①鳥、動物、地をはうものが、種類に従って、集められた。
- ②神が超自然的に働かれたので、動物たちは自分からノアのところに来た。
- ③箱舟に入った動物が 7 万 5,000 種類いたとしても、60%しか埋まらない。
- ④40%のスペースは、昆虫、食物、居住空間などのために用いることができる。

(4) 最後に、ノアと 3 人の息子たちが箱舟に入った。

- ①それぞれに妻がいたので、合計 8 人である。

III. 大洪水

1. 神からの語りかけがあつてから 7 日後に雨が降り始めた (7 日間の準備期間)。

(1) これは、人類史上初めての雨である。

- ①この雨の目的は、すべての生き物を地の面から消し去るためであった。
- ②雨は、40 日 40 夜降り続けた。

2. この洪水は、ある地域だけを襲ったものではない。

- (1) もしそうなら、人間も動物も、高い地域に避難できたはずである。
 - ①もしこれが地域的な洪水なら、大規模な箱舟を造る必要はなかった。
 - ②また、あらゆる種類の動物を集める必要もなかった。

- (2) 水が引くまでに要した時間を考えても、これは普遍的な洪水である。
 - ①水は、150日間、地の上に増え続けた。
 - ②また、地が乾くまでにさらに221日かかった。

- (3) 神は、2度と洪水をもたらさないと約束されたが、地域的な洪水は今も起きている。
 - ①普遍的な洪水を前提にしなければ、神の約束は成就していないことになる。
 - ②現在の人類は、ノアの3人の息子から出ている。
 - ③これもまた、普遍的洪水を前提とした説明である。

IV. 神の守り

1. 大洪水が襲って来ても、箱舟の中だけは安全であった。

- (1) 箱舟の中が安全だった理由は、創8:1に出て来る。

Gen 8:1 神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水は引き始めた。

- ①「覚えておられた」とは、単に「忘れていない」ということではない。
 - ②これは、心に留めている対象に対する「行動」を指すことばである。
 - ③神は、箱舟の中の人間と動物を守るために、行動を起こされたということ。
 - ④さらにこのことばは、契約関係を前提として語られることばである。

- (2) ノア契約はまだ結ばれていないが、その預言は創6:18で与えられていた。

Gen 6:18 しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい。

- (3) 箱舟は、アララテ山の上に留まった。

- ①つまり、水位が相当下がったということである。
 - ②アララテ山の標高は、5,000メートル以上もある。
 - ③箱舟は、山の頂上ではなく、山麓のどこかに留まったのであろう。

- (4) いよいよ、ノアと3人の息子たちから新しい人類の歴史が始まる。

- ①「女の子孫」の誕生を妨害しようとしたサタンの策略は、再び神によって粉碎されたのだ。